

Citation: White AR, Rampes H, Campbell J. Acupuncture and related interventions for smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 1. Art. No.: CD000009. DOI: 10.1002/14651858.CD000009.pub2.
CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 23 October 2005.
Clib issue No.; N/U: 2008 issue 4, Updated

背景: 鍼と鍼に関連した技術は、それらがニコチン禁断症状を減らすかもしれないと信じられ、禁煙療法として広まっている。

目的: この目的は、鍼や関連した介入である指圧、レーザー療法、電気刺激が、無介入、偽の処置、あるいは他の介入と比較して禁煙に効果があるかを判定することである。

検索戦略: Cochrane Tobacco Addiction group Specialized Register(CENTRAL)、MEDLINE、EMBASE、BIOSIS Previews、PsycINFO、Science and Social Sciences Citation Index、AMED、CISCOMを検索した。最終検索は2005年1月。

選択基準: 禁煙のための鍼、指圧、レーザー療法、あるいは電気刺激を、無介入、偽の処置、あるいは他の介入と比較したランダム化試験。

データ収集と分析: 集められた喫煙者のタイプ、鍼と比較対照の性質、アウトカムの測定方法、ランダム化の方法、追跡の完全性について、重複してデータが抽出された。評価時期としては、最も初期の時点(6週以前)と、6か月から1年後の間の時点が用いられた。各試験において、最も厳しい禁煙の定義、データがある場合は生化学的に確認された禁煙率が用いられた。追跡不能者は、継続的な喫煙者として扱った。必要に応じて、固定効果モデルを用いてメタアナリシスが行われた。

主な結果: 24の研究が同定された。メタアナリシスを行うにあたって十分な研究数がある介入の組み合わせは、鍼と偽の鍼との比較研究であった。短期の効果についての固定効果オッズ比は1.36(95%信頼区間1.07~1.72)であったが、これらの研究は同質ではなく、結果は1つの肯定的な研究の影響を強く受けていた。この短期の有意な効果は、変量効果モデルでは消失し、同質でない研究を除いても消失した。長期の効果については、鍼は偽の鍼と比較して効果はなかった。鍼が無処置よりも優れているという一貫したエビデンスはなく、鍼が他の禁煙介入と異なった効果があるというエビデンスもなく、いかなる特定の鍼の技術が他の技術より優れているというエビデンスもなかった。

レビューアの結論: 鍼、指圧、レーザー療法、あるいは電気刺激が禁煙のために効果的であるという一貫した証拠はない。しかし、方法論的な問題は確実な結論を導くことができないことを意味する。高頻度あるいは連続的な刺激を用いた更なる研究が行われるべきである。

(翻訳 佐々木好幸・監訳 中村正和;JCOHR)

翻訳公開日: 2010年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版

の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイムラグが生じている場合もあります。ご利用には、最新版
(英語版)の内容をご確認ください。